

# 奈留土地改良区

水と里ネット奈留



土地改良区とは、地域農業を守るため、水田や畑などの農地を整備し、農業用水路等の管理をする「団体」のことです。愛称、水と里ネット。

## シラスの山を開墾した 地元の力

串間市へと南へ下る国道220号線は、日南市南郷町の榎原駅を過ぎてしばらくすると、山あいを縫うように走り始める。

その頃には、迫る山あいの形状にあわせ、道路も線路も奈留の小川も、一つの束になり、深い蛇行を繰り返しつつ串間市に入っていく。

そのような地形なので、この山間部では、およそ大規模な農業経営は難しいだろうと考えてしまう。

しかし、実はこの一帯こそ全国有数のサツマイモ生産量を誇る奈留地区であり、ここには長年にわたる地元への想いと力で耕された、広大な甘藷畑が広がっているのだ。

「昔は串間に畑が少なかつたので、隣の志布志まで出作する人もた

くさんいました。」

奈留土地改良区の野辺 忠徳理事長は、農地開発以前を振り返る。

シラスの尾根が幾重にも連なつて形成されたこの地では、細々と農業を続けていくしかない。たとえ、よその地に畑を求めても、通いの時間や燃料代、小作料や運搬費など、諸々のコストがかかり、これでは経営が成り立たない。

この現状を打開するため、地元農家が奮起し、行政と一丸となつて県営農地開発事業に立ち上がる。

改良区はこの事業の間、常に中心にあつて、多くの関係者の調整に腐心し、完成を後押ししてきた。

今ある広大なイモ畑群と、トップブランドとなつた串間の甘藷は、このような努力の上に成立する、と言つても間違いではないだろう。

## 畑を守る改良区の苦勞

掘つたイモには土がびっしり付着する。この土は、収穫から店頭に並ぶまでの間にほとんど払い落とされるが、要するに、それだけ畑の表土が減る、ということになる。

(右上)トップブランドの甘藷。程よい甘さが贈答用としても人気。天ぷらにして食べるのがベスト。(上)イモの収穫風景。この後、イモは貯蔵され、甘みを増して出荷される。一番甘味が強いのは1月頃だ。(中)理事長の野辺 忠徳さん。地域と甘藷への強い想いを話してくれた(下)奈留のイモ畑地帯。農家の力と土地改良事業により、山を拓いて作られた。

農地開発事業 奈留地区：総事業費約26億円をかけ、昭和58年から平成7年に、約76ha(東京ドーム16コ分!!)もの広大な農地を開発した。

家族で農業を営む野辺さん一家



イモ作りには良質で豊富な土が欠かせない。そのため表土の不足は、そのままブランドへの悪影響に繋がる。水の管理も同様に重要だ。決して多くない水量を地域内で適切に管理しなければ、持続的な農業はできない。

時には厳格な規制も必要だろう。改良区は、そういう表には見えない土と水の管理に気を配り、緑の下でこの地域を支えている。

食卓に並ぶ美味しい野菜の陰に改良区の長い苦勞がある。今日はそういう感謝の気持ちをもって晩ご飯を食べたいと思った。

## MEMO 奈留土地改良区

問合せ先  
〒888-0007  
宮崎県串間市中大字南方249  
TEL (0987) 7215605